

第3学年 道徳学習指導案

い組 男子 20 名 女子 19 名 計 39 名

指導者 福留 忠 洋

1 主 題 名 わたしのしごと

4－(3) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。

2 主題について

(1) 主題の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに、家庭での生活や家族とのかかわりを通して、自分は家族に大切にされている存在であると感じてきている。また、家族と共に協力して生活するためには、手伝いなどの役立つことを行うことでよりよい家族関係を築いていけることも理解し、家族と協力し合ってよりよい家庭をつくろうと努力してきている。しかし、家族の一員として、協力することの大切さを理解しているにもかかわらず、自己中心的な考えや怠惰な感情から、家族の一員としての役割を果たすことができないこともある。このようなことから、この期の子どもたちに、家族の一員として協力し合うことのよさや家族を大切にするもののよさに気付かせ、家族のために協力していこうとする態度を育てる必要がある。

本主題では、家族を敬愛したり、その一員として協力し合うことができなかったりする場面で生じる心情や心情の変化を、自らの体験場面での内面と関係付けて類推しながら追究する活動を通して、家族と協力することの大切さを理解し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくろうという気持ちを大切にしようとする心情を育てることをねらいとしている。さらには、家族への愛情を深め、家族みんなと協力していこうとする生き方は、お互いを大切に、よりよい人間関係や社会を築いていくことに繋がるといふことのよさを実感し、これからの生活に生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

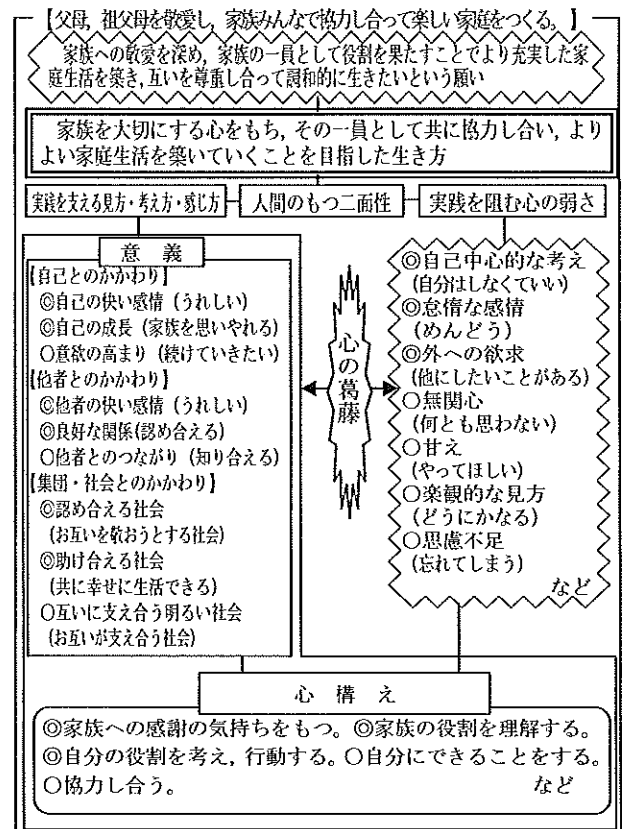
このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は、父母、祖父を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする生き方を深く追究していく学習へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくることについて、人間のもつ二面性に着目して人間理解を深めるといふ立場から分析すると右の図のようになる。

父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくることとは、家族を大切にすることをもち、その一員として家族の役に立つことであることとらえることができる。

ここでは、家族への敬愛を深め、家族の一員として役割を果たすことでよりよい家庭環境を築き、互いに尊重し合って調和的に生きたいという願いの基に、家族を敬愛する心をもち、その一員として役割を果たすことでよりよい家庭生活を築いていくことを目指した生き方とし、その実践を支える見方・考え方・感じ方（意義や心構え）と実践を阻む心の弱さの両面から、人間理解を深めていくことになる。具体的には、父母、家族を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくることで、自他共に快い感情になれることや家



◎は重点的な学習内容

族関係が深まること、さらには互いを認め合い、信頼し合う社会を築いていけることにつながることを理解させる。また、それらの実現に必要な心構えとして、「家族への感謝の気持ちをもつ」「家族の役割を理解する」「自分の役割を考え、行動する」ことも理解させる。そして、これらの意義や心構えを深めたり広げたりするために、家族の一員として協力し合って生活したいという気持ちをもちながらも、甘えや自己中心的な考えから、なかなか実践できないことについても理解を深めたり広げたりする。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために、本主題では読み物資料「ブラッドレーのせいきゅう書」(文溪堂)を取り上げることにした。この資料は次のような粗筋である。

主人公のブラッドレーは、母親に自分がした手伝いの駄賃を要求するために、請求書を書いて渡す。請求書を見た母親は、にっこりと笑ってなにも言わずブラッドレーに4ドルと請求書を返す。逆に、母親からの請求書には、今までブラッドレーを育ててきたことが0ドルの請求と共に書かれており、請求書を読んだブラッドレーは、目を涙でいっぱいにして、改心するという粗筋である。

この資料を扱うに際し、話の内容の理解を深め、主人公の心情に十分に触れさせるために、録音CDや一枚絵を活用する。また、子どもたちの生活場面を振り返らせたりしながら関係付けて類推させるようにし、主人公の心情や心情の変化に自我関与させる。

具体的には、まず自ら立てた課題を追究するために(計画性の向上)、資料の一読後の感想から、ブラッドレーが母親に涙で謝罪し、自分にできることをしようとする場面や請求書を提示した場面に焦点化させる。次にブラッドレーが請求書を提示したことを後悔し、母親の役に立とうと感じた場面(意義・心構え)について、その行為のもつ意味を考えさせたり、請求書を書いたときの気持ちについて考えさせたりして、家族を大切にすることやその一員として役割を果たすことについての見方・考え方・感じ方を深めさせる(責任感の高揚)。その際、ここでの道徳的価値にかかわる意義や心構えについて多面的にとらえさせ、見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりするために対話活動を取り入れる(協調性の向上)。さらに、授業の中で感じたことを自らが立てた課題と関連付けて考えさせたり、今までの自分の生活と比較させて考えさせてまとめたりすることを通して、生活場面での意欲や態度を高めるようにする(自己肯定感の醸成)。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役立つことをしていくことを目指す生き方をしていこうとする喜びや楽しさとなり、そのことが豊かな自分の生き方を追究し続けることにつながると思う。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちの父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくることにかかわる感情や実践を阻む心の弱さ、実践を支えるための心構え、実践を支える見方・考え方・感じ方(意義)に対する認識は、以下の通りである。

[表1]役割の理解(総反応数90)とそれらに対する感情(総反応数39)

役割の理解	反応数(人)	それらに対する感情	反応数(人)
料理・洗濯などの家事	43	感謝の気持ち	15
仕事をしてくれている	18	応援したい気持ち	3
遊んでくれる	9	自分も何かしたいという気持ち	4
ものを買ってくれる	7	うれしい気持ち	4
手伝いをしてくれる	5		
勉強を教えてくれる	4		

[表2]実践を阻む心の弱さについての認識 総反応数(41)

心の弱さ	反応数(人)	心の弱さ	反応数(人)	心の弱さ	反応数(人)
自己中心的な考え (気分が乗らない)	12	怠惰な感情 (めんどろ)	10	外への欲求 (遊びたい)	10
労苦からの逃避 (やりたくない)	5	自分本位な考え (忙しい)	4		

【表3】実践を支える見方・考え方・感じ方（心構え）（総反応数41）

見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)
自分にできることをする	14	家族を大切に思う気持ちをもつ	11	感謝の気持ちをもつ	9
家族のことを理解する	7				

【表4】実践を支える見方・考え方・感じ方（意義）（総反応数96）

見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)
対 うれしくなる	20	対 家族が喜ぶ	18	対 みんなが大切にされる	14
自 やる気がでる	6	他 家族が助かる	8	集 みんなが助け合える	10
己 役立つ喜びを感じる	5	者 信頼関係がもてる	5	社 お互いを信頼できる	8
やさしくなれる	2				

【表1】から家族の役割に対する感情については、「感謝の気持ち」「応援したい」の感情を抱いている子どもが多数を占めている。しかし、家族の一員として、自ら行動していこうとする感情を抱いている子どもは少ない。また、【表2】から「気分が乗らない」「忙しい」「遊びたい」などといった感情から、家族への感謝の気持ちをもってはいるものの、それらの気持ちを家族の一員として、自ら行動していこうとする際に、具体的な行為に移せないでいると考えられる。さらに、【表3】からは、「自分にできることをする」「家族を大切に思う気持ちをもつ」という心構えの大切さを感じている子どもが多く、【表4】からは、「うれしくなる」「家族が喜ぶ」「みんなが大切にされる」という意義を感じている子どもが多いことが分かる。そこで、心構えや意義を十分に関連付け考えさせたり、心の弱さを対比的に考えさせたりして、家族を大切にすることや協力し合うことについての意味やそのよさを重点的に考えさせていく。

一方、道徳の時間においては、本学級の子どもたちは、登場人物の心情やその背景と自らの生活場面を関連付けてとらえることはできるが、それらを生活経験の異なる子どもと積極的に交流し、自らの道徳的価値に対する見方・感じ方・考え方を深めたり広げたりしようとするまでは至っていない。そこで、道徳的価値のもつ意味を主人公や自らの生活場面と関連付けて考えさせ、具体化したり、多様な見方・考え方・感じ方について生活場面において重点的に考えさせたりすることを通して、学んだことと自分の生き方とのかかわりを意識させながら追究するような働きかけを具体化していく。

(4) 指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては、父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくろうとする生き方のよさを子どもたち同士がお互いの見方等を大切にしながら（協力）主体的に迫及すること（参加）を通して、実感を深める中で、子どもたちがこれまでの様々な体験で感じてきた道徳的価値にかかわるよさが、これからの生き方へと連続、発展していくようにしたい。（尊重）

ア この内容にかかわる生き方についての切実な問題意識をもたせるために、これまでの生活場面を想起させ、家族を大切にすることの意味やそのよさについて考えさせることで、子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させるようにする（見通し）。

イ 主人公の心情や心情の変化に共感させ、主人公の行為のもつ道徳的価値の意味やよさを追究させるために（吟味）、主人公が母親に対する謝罪の気持ちから涙する場面に焦点化する。次に、ねらいとする道徳的価値のもつ意味について考えさせるために（多面・総合、コミュニケーション）、焦点化した際の表出させた子ども自らの生活場面での心情と対話活動で表出した考えを類型化して整理する。その際、その道徳的価値のもつ意味が自らの生活場面で生かされているよさ（意義）について考えさせるために（多面・総合、コミュニケーション）、対話活動を行う。

ウ これからの生活の中で生かしていこうとする意欲を高めるために、主人公の生き方や設定させた学習問題を基に自分の生き方を振り返らせる。その際、書く活動を取り入れ、自らの立てた課題に対する見方等の変容を確かめさせ、自分のこれからの生き方について期待感（尊重）をもつことができる場を設定する。

3 本 時

(1) ねらい

- ア 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくることにかかわる内容についての自分自身の生き方を見つめ、家族を大切にし、協力し合っていこうとする気持ちを高めることができる。
- イ 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくることにかかわる見方・考え方・感じ方を他者とのかかわりの中で自らの経験場面での内面と関係付けて類推しながら深めたり広げたりすることができる。
- ウ 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくることにかかわる内容について、家族を大切にすることや家族と協力し合うことといった意味や幸せに生活できる、気持ちよく生活できるといったよさを自分の生き方とのかかわりを通して理解することができる。

(2) 本時の展開に当たって

道徳的価値についての意味やよさを追究させるために（多面・総合、吟味）、「家族に大切にすることが、家族の幸せにつながる」という意義と心構えを関係付けさせたり、「遊びたい気持ちもあるが、家族の役にも立ちたい」という弱さと心構えとを対比的に考えさせたりしたい。

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間 (分)	教師の具体的な働きかけ
気 付 く	1 考えていきたい問題に気付く。 家族が喜ぶ。 ↔ なかなかできない。 家族を大切にすることはどんなよさがあるのだろうか。	5	○ 家族を大切にすることについての自己の捉え方を明確にするために（多面・総合）、家族を大切にすることの意味について考えさせたり、自己の経験における心情と比較させたりして、矛盾や疑問から問題意識を高めさせる。
さ ぐ る	2 資料「ブラッドレーのせいきゅう書」を読み、考えていきたい問題について話し合う。 (1) ブラッドレーの言動や心情、心情の変化について感想をもち、考えていきたい場面を選択する。 (2) ブラッドレーが涙でいっぱいになった行為の意味や意義について話し合う。 ① 道徳的価値の意味について追究する。 【目を涙でいっぱいにしたブラッドレーの心情】 申し訳ない。 ⇒ 家族がいてくれて今の自分がある。 ⇒ 自分も家族のために役に立ちたい 自分のことばかり考えてしまおうとついわがままになってしまう。 【心の弱さ】 ・気分が乗らない。 ・めんどろだ。 ・遊びたい。 【心構え】 ・家族への感謝の気持ちをもつ。 ・家族の役割を理解する。 ・家族と協力しようとする気持ちをもつ。	14	○ 主人公が母親に提示した請求書に対して自己との比較を通して考えさせるために（見通し、参加）、「この請求書を見て、みんなはどう感じるか。」と問う。 ○ 主人公の気持ちを自らの体験場面での内面と関係付けて類推させるために（吟味）、請求書を提示した場面や母親の請求書を見た後の心情について考えさせる。
見 つ け る	② 道徳的価値の意味が生活の中でどんなよさにつながっているかを追究する。 家族の役に立つことは、とても気持ちがいいと思うから、できることしたいな。 わたしなら、お金なんて請求するなんて考えられないなあ。 【意 義】 家族が幸せになる→うれしい気持ちになれる→家族を大切にしようとする気持ちももてる→自分に自信ももてる→みんなが大切にされる→よい社会になる など	17	◎「ブラッドレーの涙にはどんな意味があるのだろうか。」 ○ 道徳的価値に対する見方等を深めたり広げたりしながら、意味について追究させるために（吟味）、家族への感謝の気持ちをもつといった心構えや当たり前に感じてしまうといった心の弱さにかかわる見方等を関係付けたり、対比的に扱ったりしながら話し合わせ、類型化して整理する。
深 め る	(3) ブラッドレーの生き方を振り返り、自分や友だちの考えで感じたことや考えたことを発表する。 家族の一員として、自分にもできることがたくさんあるな。	7	◎「ブラッドレーは家族と生活していく中でどんなことを感じることができただろう。」 ○ 道徳的価値を大切にすることによって、生活の中にどのようなよさがあるかを追究させるために（吟味）、主人公の心情やその背景を考えさせたり、自らの生活場面と関連させて考えさせたりして、家族が幸せになることやうれしくなるといった見方等について深めたり広げたりする（多面・総合、コミュニケーション）。
見 通 す	3 学習したことを振り返り、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくるよさについて自分なりの考えをまとめる。 自分ができることをすること家族の幸せにつながっているんだ。	2	○ 主人公の生き方や設定させた学習問題を基に自らの生き方を生かすために、書く活動を取り入れ、家族を大切にすることのよさは、協力し合える家族になれたり、家族の幸せにつながったりするという自らの立てた課題に対する見方等の変容を確かめさせ、自分のこれからの生き方について期待感をもつことができるようにする（尊重）。
	4 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくることについて教師の説話を聞く。		○ 学習したことについて表出した見方等を基に、これからの生き方について期待感をもたせる説話を行う。